



川西 明德 議員

質問 「わくわくドキドキ、明日も 行きたくなる楽しい学校」を

教育長 行きたくなる学校をめざす



質問 学校が依然として息苦しい場となっていることを示しているのが不登校の子どもたちだ。過剰なストレスから身を守るため、本能的に防衛機能が働いて登校することを拒否している状態が不登校だ。

回答 学校が依然として息苦しい場となつていて、子どもたちが行きたくなる学校にするには、まずは、教職員の「超多忙化」、臨時教員の待遇改善・正規化の解決だと求めているのか。改善は認められているのか。

質問 人権救済申し立て・提訴は奥出雲町教育行政の実態を反映しているから発生したものだ。救済申し立て・提訴の教訓と見解を伺う。

質問 児童生徒医療費助成制度の事業効果はどうか。

質問 特定教育・保育施設の利用者負担を減免しているが、支援の実情はどうか。

町長 減免については、国が無料化を段階的に進めている。非課税世帯第2子の無料化、県は一部の階層の軽減、町独自でも負担軽減・全額免除など措置している。

一方では、不登校の子どもたちの様相が変わったとも言われる。「相互受容度」が低下した、自尊心が低下していると問題が顕著な競争主義や

教育長 不登校の原因は様々だ。行きたくなる学校となることが大事だ。そのためには、教職員のワーク・ライフ・バランスを図ることが大切だ。

教育長 いじめは、児童生徒の教育を受ける権利を著しく侵害し、その心身の健全な成長、人格の形成に重大な影響を与えるのみならず、生命・身体に重大な危険を生じさせる恐れがある。

質問 子ども・子育て支援策の実態と事業効果はどうか。

町長 幼稚園には、保護者が働きながら安心して預けられる仕組みを構築した。希望する条件で入園できるように認定をし、喜ばれている。



いじめ防止基本方針を本年度中に改定する。